

第5回 政経塾資料

下り坂の未来と闘う政治

令和2年11月28日

依光晃一郎

下り坂の未来と闘う政治とは

政治が、より良い未来を作り出すためのものであるなら、あるべき未来像の実現のために、自分自身がどのように貢献できるかを考えなければならない。

そして、その実現への難易度は、時代によって、自分の立ち位置によって変わってくる。

人口減少という下り坂で闘う覚悟が、まずは必要。

下り坂の未来と闘う政治とは

戦後の高度成長期とは違った政治

- ・ 税収が増える時代＝分配の政治
- ・ 目指すべき社会像が明確＝アメリカを目指して？
- ・ 税収が減るなら、少ない予算で、大きな効果

人口減少、都会への人口移動

- ・ 何もしなければ、さらに加速。
- ・ これまでも対策をやってきた。→何か別のものが？

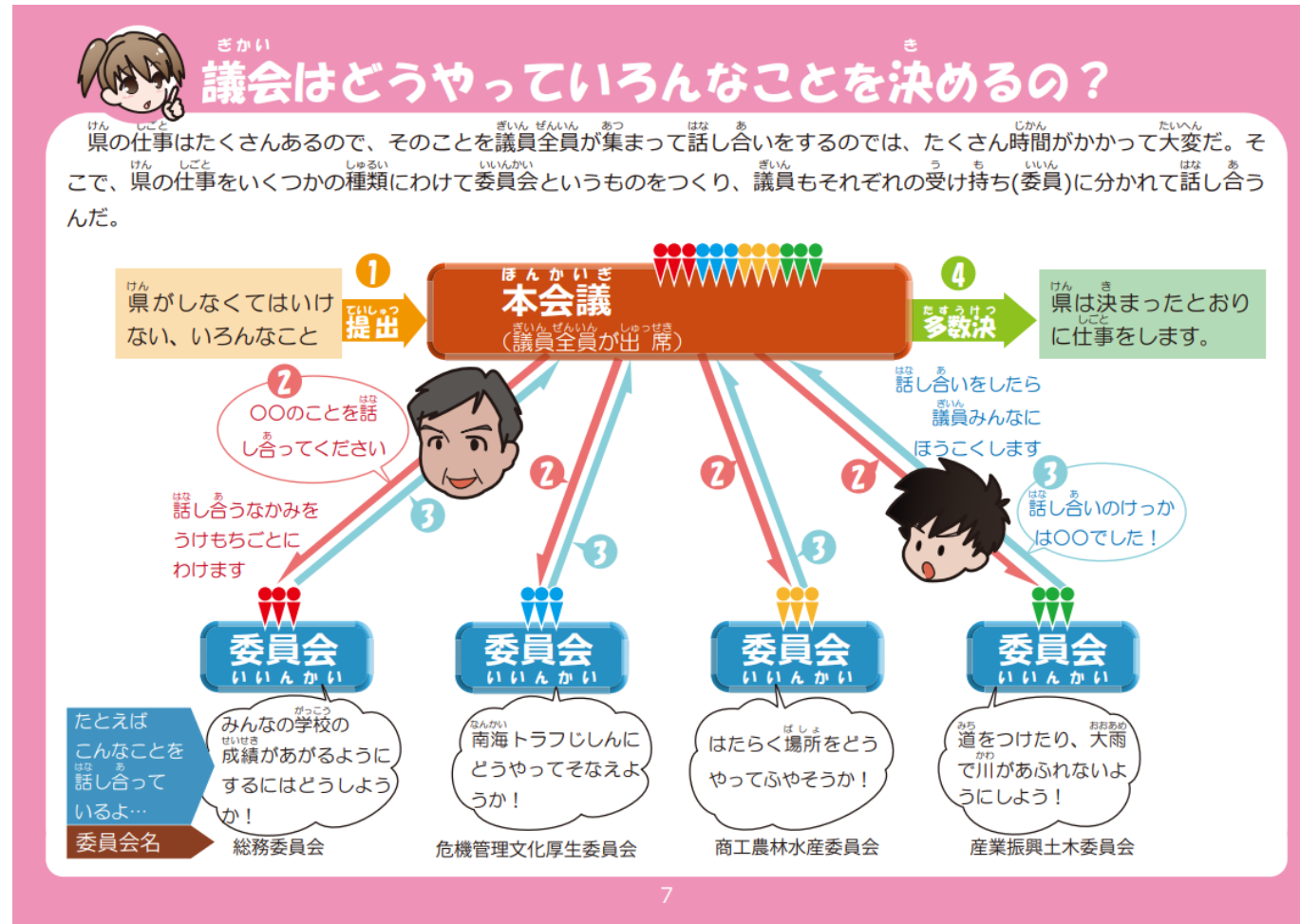
定義としての政治とは

・政治とは、社会に対して全体的な影響を及ぼし、社会で生きる一人ひとりの人生にも様々な影響を及ぼす複雑な領域である。人々にとって、そもそも何が重要なことなのか、社会がどのような状態であることが良い状態なのか、ということも扱い、人々の様々な意志からどれを選び集団の意志とするか、どのような方法でそれを選ぶか、といったこととも深く関係している。(Wikipedia)

定義としての政治家とは

- ・近代以降の代表民主政治のもとでの政治家は、何らかの「代表」である、ということによって正当性を賦与されている。
- ・総務省は、政治家を「候補者、立候補予定者、現に公職にある者」と定義している (Wikipedia)

定義としての政治家の役割とは



知事・市町村長

行政を動かして、
より良い社会を作り出す
政策を提案する。
(左図の①提出)

議会議員

行政の政策に、議会を
通して、正当性を与える。
(左図の④多数決)

依光の考える、政治とは。

- ・ 政治とは、より良い社会にするための運動体

- 政治家だけではなく、多くの人に関わるもの。
- 一般企業を通じて。ボランティア活動を通じて。
- 最近では、「社会起業家」という呼び方も。

政治家という職業ではなくても、社会を良くする人は政治家である。
つまり政治家の定義を広くし、みんなで社会を良くするという共通認識。

= 幕末の志士。

→尊王攘夷運動

(政治体制を改め、西洋列強に負けない国造り)

依光の考える、狭義の政治家である議員の役割とは

1、理想の姿を描き、行政を通じ、その実現を目指すもの

→税金を使って。条例などルールを作って。

→光が当たっていない歪みを問題提起。解決策の提案
＝提案型の議会質問

→行政の仕事を理解し、サポート
＝職員提案の新しいチャレンジに対して、議会でお墨付き

(県議会・委員会議事録で依光の発言をチェック。＝良い提案は、ほめ殺し)

依光の考える、狭義の政治家である議員の役割とは

2、運動体を活性化させる取り組みを提示＝住民参加

→論理的に作られた政策＝後から議論に参加できる
(マトリクス分析+SWOT分析＝産業振興計画)
(EBPM ＝エビデンスに基づく政策立案)

→意思決定に関わる情報を、分かりやすく公開

→意思決定に関わる情報が公開されている時代。公文書館
(昔は、トップ層が情報を独占し、トップ層だけで意思決定)

→政治を分かりやすく。参加者を増やす。

→政治を身近にする取り組み。高校での授業
→政治家を発掘。→KOCHI自民党政経塾

政治家（社会人）としてのテーマを持つ

「何のために生まれて 何をして生きるのか
答えられないなんて そんなのはいやだ！」

狭義の政治家ではなくても、仕事を通じて社会貢献

依光は？

瓦屋（家業）を通じて、社会貢献＝親孝行
NPO（若者支援NPO）を作って、社会貢献
→たまたま、県議会議員。

落選よりも、今言わなければ後悔すると思って立候補。

最後に、ご参考まで。依光のテーマ

雇用の創出

人口減少対策

災害対策

1回目の議会質問

平成23年6月議会定例会一般質問

七月四日

永国寺キャンパスに産業創出機能を持たせてはどうか！



依光 晃一郎
(自由民主党)

問 高知県立大学永国寺キャンパスに、産学官の垣根をより低くした産業創出機能を持たせることが望ましいが、所見を聞く。

答 知事 県立大学改革プランなどを受けて、県と関係する大学で整備等検討チーム会を立ち上げ、具体的な検討を進めてきており、永国寺キャンパスに共通の窓口として、産学官連携や地域連携のためのセンターを設置したいと考えている。このセンターを中心に、社会人教育の企画立案等を行うとともに、県の研究機関や産業振興センターとも連携し、県内企業との情報交換や交流などの産学官連携の取組を進めていきたい。

問 県内の高校から県外の大学に進学した学生の県内就職についてどのように考えているのか。また、その状況を把握しているのか。

答 知事 今春の新規大卒者の採用に関するアンケート調査では、採用した643人のうち、Uターン就職した方は327人で、この春に卒業したと思われる県出身者の2割にも満たない。対処の方向は、第一に、県内大学への進学を増やすために進学先を県内に確保し、第二に、雇用の場の拡大や情報発信の取組を強化することだ。

問 被災者の受入れに関して、津波被害を受けない海のない自治体と海を抱えた自治体間の連携について聞く。

答 危機管理部長 現在、県内の市町村で災害時相互応援協定を締結しているが、広域的な災害による大量の避難者に対する実践的で具体的な対応には課題が多い。市町村ごとに想定される避難者数と避難者を収容できる容量を整理し、対応できない避難者は広域的な受入れの枠組みを検討しなければいけない。市町村とともに仕組みづくりに取り組んでいく。

依光のテーマ

初めての議会質問 平成23年6月定例会

私が今回立候補するにあたりまして、お訴えさせて頂いたことは、なんとしても雇用の場を作らねば、我々の世代が頑張らねばということでした。地域の皆様方からも働く場を、地域の担い手をなんとかしてほしい。そんな声を多く聞かせて頂きました。高知には多くの課題が山積しておりますが、仕事の問題、担い手の問題を解決せずして、他の問題の解決はありえないとの確信を得ました。

依光のテーマ

中山間地域の疲弊は、集落の消滅という事例も引き起こしています。集落にある数百年に渡って守られてきた神社が、誰も管理できなくなったり、幾世代にもわたって毎年作付されてきた田んぼが、ここ数年で何も植えられなくなる。

効率化、集約化の流れの中で、昔ながらのものは消えていく運命といえはそれまでですが、長い時間をかけて守られてきたものが、目の前で消えていくことに対して、責任を感じざるを得ません。

依光のテーマ

私は、この雇用場の作りと担い手の問題が、これまで土佐の先人が築いてきたかけがえのない文化や伝統の継承に関わる非常に重要なことだと思っています。

今年の産業振興計画では、「正念場」という言葉が使われていますが、今やらなければ、大事な土佐の伝統文化が消えてしまう。そういう意味で、私も今が土佐文化の正念場と考えています。

まとめ

皆さんは、もう既に広い意味での政治家です。

それぞれの持ち場で、
人口減少が続く下り坂の未来に負けずに、
一緒に闘って行きましょう！

議員を目指す皆さんは、是非チャレンジしてみてください。
政治は面白い、クリエイティブな仕事です！！

高橋事務局長が助けてくれます♪